

## ○長野県飯田市

### 「地域人教育」のすすめ

長野県飯田市長 牧野 光朗

#### ・右肩下がり時代の人生設計

人口減少、少子化、高齢化が進む一方で国も地方も財政難といわれる右肩下がり時代に生きる若い人はどんな人生設計を描けるのだろうか。

4コマ漫画で表したものが図1である。

～いい大学、いい会社に入ればいい人生が送れると信じてひたすら受験勉強に取り組んだ地方の若者が念願叶って大都市の大会社に就職はしたものの、待っていたのは長時間満員電車に

詰め込まれる毎日や、転勤辞令の紙一枚で余儀なくされる家族との別居生活。しょぼくれて田舎に帰ると、そこもすっかり寂れてしまっていた～

一体どこで間違えてしまったのか。私は自らの経験とその反省から1コマ目に原因があると捉えている。柔軟な思考ができて感受性も豊かな高校時代に生まれ育った地域のことを何も学ばずに地域を離れ、出身地がどんなところか問われても答えられるものが無いのに若気の至りで「何もない田舎」と言ってしまう、自らもそれを信じてしまった過去。今振り返っても赤面ものだが、こうした状況は高校卒業後故郷を離れてしまった数多くの若い人に当てはまるのではないか。

右肩下り時代であっても、このような負のスパイラルに陥ることなく、若い人たちが心豊かな人生を送り、かつその生まれ育った地域も将来を担う人材を確保できるようにするためには、高校卒業までに自分の地域を深く学び、地域としっかり向き合える場をつくる必要がある。これが飯田市が取り組む「地域人教育」のベースにある考え方である。

#### ・「地域人教育」が若い人、そして地域にもたらすもの

平成24年度に長野県立飯田長姫高校（現飯田OIDE長姫高校）、松本大学、飯田市の三者で「地域人教育」に関するパートナーシップ協定が結ばれた。この協定が定める「地域人」とは、地域を愛し、理解して地域に貢献する人材のことを指し、「地域人教育」は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育むことを通じて、地域を担う人材を育成することを目的とした教育プログラムである。これは同高校商業科において三年間の継続的・段階的な授業カリキュラムとして位置付けられ、高校生は「探究的」「体験的」「実践的」な学びを通じて自らの人生を切り拓いていく力を獲得していく。



図1

特に3年次には、80名ほどの生徒が10グループに分かれて実際に地域に入り、様々な活動に触れながら自分たちの課題意識や具体的な活動を考えて実践していく。このプログラムのキーポイントは、評価しあって実行に結びつけていく平らな寄せの場である。地域に多様なイノベーションをもたらす源泉とも言えるもので、飯田にはこうした共創の場が様々な分野に存在する。

高校教育に地域の力を取り入れたこの取組みを始めて今年で7年目になるが、1年目当初は「面倒くさい授業」と捉えていた高校生が、地域の大人の生き方に触れるうちに自らが問題意識を持つようになり、「私たち高校生にもできることはないか」「言われたことをやるのではなく、自分たちの考えで動くことが大切」と、自身の生き方やこの地域との関わりを考えることができるようになっていく。また、こうした意欲や関心が高まるのみならず、具体的な実践と振り返りを繰り返す中で、事業の企画力や自身の取組みを整理し伝えるためのプレゼンテーション力において顕著な向上が見られるなど、当初の予想を大きく上回る成果を上げてきており、文部科学省においては、いわゆる偏差値教育で言うところのミドル層を主たる対象に、こうした地域人教育を高校教育改革のモデルにすることを打ち出すに至っている。

地域人教育による成果は、高校生の気づきや変化のみにとどまらず、この取組みに関わった大人にも変化が生まれている。例えば、当初は高校生に地域のことを教えてあげようと考えていた住民も、地域のことを学び、地域の課題を解決していこうとする高校生の主体的な姿や具体的な提案などから「新たな気づき」をもらい、共に地域のことを考え、一緒に学ぶパートナーとして迎える関係性が生まれてきている。地域人教育を通して縦の繋がり、横の広がりが生まれ、それが新たな共創の場をつくってまた地域の力となっている。

### ・「人材サイクル」を構築し真の地方創生を目指す

さて、地域人教育を受けた若い人の人生設計はどうなるのだろうか。私は図2のようになるのではないかと考えている。

～地域を学び、地域に愛着を持った若者は、高校を卒業しても地域との関係を持ち続け、やがて子育て世代になる頃には、自分の子どもは自分の故郷で育てたいと考えて帰郷し、地域を担う人材となる。その子ども達も地域人教育を受け、一旦はこの地を離れても子育て世代になる頃には帰ってくる。こうした「人材のサイクル」が構築されることで地域には子ども達から年配者まで多世代が住み続け、持続可能な地域が創出される～

私たち行政の役割は、こうした人材のサイクルを構築するため、自分たちの地域は自分たちでつくりたいと志す産業界や地域住民の皆さん（飯田では「多様な主体」と呼称）と協働して産業づくりや地域づくりを進めることであり、それが真の地方創生に繋がるものと捉えている。



図 2